

## 令和元年度 第6回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】 令和2年1月22日（水）

午後1時30分～午後3時30分

【会場】 くれいどる芝楽 芝川文化ホール

### 1 出席者

- ・ 発言者 富士宮市において様々な分野で活躍中の方  
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 110人

### 2 発言意見

番号	分野	項目	頁
発言者 1	酪農	良質な食の提供、酪農への理解促進	2
2	商業	商品開発と販売促進効果	4、19
3	地域振興	地域おこしの取組、地域振興	6、19
4	製造販売	商品開発による地域活性化への貢献	8
5	農業	地域農業の活性化、農業振興の取組	12、19
6	観光・環境	自然環境に配慮した観光需要の創出	14、19
傍聴者 1	—	縄文文化教育と情報発信	20
2	—	リニア新幹線工事による水問題	21
3	—	ベビーステーション事業への支援	22
4	—	長貫えん堤の芝川への影響	23
5	—	浜岡原子力発電所等	24
6	—	雨畑ダムの土砂撤去	25

【川勝知事】 皆様こんにちは。だいぶ寒くなりましたけれども、お身体を崩されませんように。10年前、まだ芝川町のときにお邪魔している、ここ「くれいどる芝楽」に來られて喜んでおります。富士宮と合併されまして、丸10年ということで、この機会に、この芝川地域、富士宮全体が発展する機会になればと思っております。

何しろ、富士山世界遺産センター、実は九つぐらい候補があったんです。全部回りましたけれども、熱心さと圧倒的な地理的な優位さで、現在の場所に決まりました。富士宮焼きそばに、この世界遺産センターが加わりまして、本宮も大変喜ばれているようで、本当に神様が集う地域だなと思います。白糸の滝のところも、きれいになって本当に感心しました。通常、汚いというふうに思われがちなトイレが、何か美術館みたいになりましたね。そして電柱を全部埋設し、富士山の景観が見られるようにされるなど、本当に感心しております。

これは、広聴会と言っております。今日はここに、若手の男性3人と女性3人がいらっしゃっております。そのお話を承りまして、これを県政に活かしていくと。それだけではなくて、例えば要請があった場合、私がすぐ答えられるものは答えませけれども、答えられない場合には、必ず持ち帰りまして、確実にお答えします。皆様のお話を承って、宣伝できるものは私たちがPRすると。同時にまた、何か課題があるならば、一緒に方法を考えるというか、こちらの考えを申し上げまして、そして、要請があればそれを持ち帰って、確実にお返事差し上げるというものです。もうすでに70回近くやっております。そんなわけで、2時間近い長丁場でございますが、今日はきれいなお花も添えていただきまして、寒い中ですがけれども、ここは熱のあふれる、そういう2時間になればいいなと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【発言者1】 はじめまして。朝霧高原で酪農をやっております富士丸西牧場の発言者1と申します。よろしくお願ひします。私は、私の祖母が満州から引き揚げてきた後、長野県より昭和27年、現在の場所に入植いたしました。富士花鳥園の隣にあたります。入植が一番最後だったので、一番西のはずれに入りました。私で3代目になります。

朝霧は酪農が盛んな地域で、現在40軒ほどの仲間が酪農を営んでおります。戦車学校の跡地に入りましたので、溶岩が多くて寒さも厳しく、酪農に適しているということで酪農が盛んになりました。今では、牧草や飼料用トウモロコシを、うちでは30へ

クータルほど作付をして、現在、全部で180頭の乳牛を飼っております。

経営の特徴といたしましては、全頭を自家育成しているということです。自家育成というのは、生まれた子牛を親牛になるまで、ずっと牧場で育て上げるということです。以前は当たり前のことだったんですけど、今では、生まれた子どもを北海道へ預けてしまったり、生まれる直前の牛を北海道から買ってくる牧場がほとんどになってしまい、自分のところで育てている人は少ないです。

二つ目の特徴として、放牧をしていることです。昔は、皆牛舎の外に牛を放していました。でも手間がかかります。放牧というのは、ただ放しておけばいいということではなく、放してみるとわかるんですが、実は牛はすごくグルメで、おいしい牧草しか食べません。まずそうなのはほとんど口もつかないの、トラクターで刈り取る畑よりも神経を使って、柔らかい牛の好むような草ばかりにしてあげないと牛は食べないんですね。それに、実は青草だけ食べても牛乳は出ません。いろんな餌を組み合わせ合わせて牛乳を作っているんです。青草だけ食べていても低コストにはつながらないので、放牧をしている牧場は減ってしまいました。今、放牧を続けているのは3人ぐらいになってしまいました。

一昨年前に、富士宮市内の酪農家と、富士の国乳業という会社を、皆様の力で立ち上げることができました。主に学校給食用の牛乳を専門に製造しています。地元の子どもの、自分たちの牛乳を飲ませたいという思いから始めました。実は、よその地域の乳業メーカーさんの牛乳を飲んでいた時期がありましたが、今、こうして自分たちの牛乳で子どもを育てていこうということで、ようやく達成することができました。

会社の特徴としましては、高品質な牛乳、そして殺菌方法の違いから、子どもたちに好評で、「学校の牛乳は飲めるけど、スーパーでお母さんが買ってくる牛乳はちょっと。」、なんていう話を聞くと、がんばってやってきて良かったなと思うんです。そして、昨年末から食べるヨーグルトの販売を始めました。牛乳として飲んでもらうだけでなく、やっぱり皆さんに食べてもらおうと。スーパーの棚を酪農家仲間と取り合うのではなく、違うステージで勝負していきたいということで、ヨーグルトの製造販売に踏み切りました。今までも飲むヨーグルトはあったんですけど、今度は食べる方にシフトしていこうかなと思っています。そういうことで朝霧の牛乳をもっと広げていきたいなと思っています。

そこで知事をお願いしたいことがあります。まず一つ目は、子どもの数が少なくな

ってしまうと売り上げが落ちてしまって非常に心配なので、子どもの数が減らないまちづくりをぜひ進めていただけたらと思っております。

そして関連しまして、インフルエンザです。今年はまだ落ち着いていますけれど、インフルエンザが猛威を振るう時期は、前日まで学校に来ていても、その翌日インフルエンザにかかって来られないという子どもが、富士宮だけで何百人にもなる時期があります。注文は前日なので、牛乳がすべて会社に戻ってきてしまいます。それは全て破棄する牛乳になってしまうので、生産する側としては、せっかく作ったのに捨てるしかないという、非常に残念な気持ちでいっぱいです。牛乳を飲んで、食べて、健康な子どもを育てていきたいので、ぜひその部分の協力を知事にはお願いしたいなと思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

【発言者2】 こんにちは。望月商店の発言者2と申します。富士宮の青木という場所で140年続く八百屋の嫁として、主に商品の開発、接客、商品の調理をしております。今、お店の宣伝は主にインスタグラムでしております。今日もお店の宣伝も兼ねてやってまいりましたので、よろしくお願いいたします。

インスタグラムのフォロワーが、今、3.7万人になっております。フルーツサンドがきっかけで、たくさんの方にフォローしていただけることになったんですけれども、フルーツサンドも特に自分から多くの人に知ってもらいたいとか、そういう気持ちで始めたわけではなく、身近にあるフルーツを使って、みんなが気軽に買っていってもらえるものがないかなと思って、そこで初めてフルーツサンドを作り始めたんですけれども、運よく、一夜にしてといたしますか、SNSのすごいところで、みんながたくさん拡散して、すごく多くの方に知ってもらえるような感じのシステムになってるわけですね。はじめてイベントに出させていただいたのが、発言者3さんの会社のイベントなんですけど、その時は全然無名で、お客様がちらちら買いに来てくれて、「わあキレイだね」ぐらいの感じだったんですけれども、それがSNSのインスタグラムを通じて、今は、本当にたくさんの方に見えていただける状況になっておりまして、嬉しい限りです。

私の生まれは北海道です。小学校の頃まで北海道で農業をやっておりまして、父が脱農家をして、神奈川県に引っ越しました。大学でデザイン科を専攻しまして、そのときに人の顔をモチーフにした癒しグッズを作りました。触感が独特で、今回、第3

弾なんですけど、今八百屋で働いているので、身近なフルーツをモチーフに作ってます。これも「これでみんなを癒したい！」とか、そういう野望があったわけでもなく、みんなが「わあっ」って言うてくれるようなものができたらいいなという気持ちで始めたんですけれども、今は世界でも取り扱ってくださるお店がありまして、それもすごくみんなに感謝しています。

大学を卒業してから、10年くらい東京でいろんなことをして、ある日ハッと、「酪農がやりたい」と思いまして、富士宮の酪農家の農場に1ヶ月間の住み込みで行きました。すごく楽しくて、牛もめちゃくちゃかわいくて、こんな素晴らしいところがあるんだと思って、気付いたら1年ちょっと働いていました。

その後、八百屋に嫁ぎまして、子育てをしながらお店を手伝っていました。まだ子どもが小さかったので、接客から少しずつ始めたんですが、ある日突然Instagramですごく忙しくなっちゃって、大変な思いをしながら子育てと両立させていった次第です。今は子どもも大きくなりまして、新しい商品をいろいろと開発したり、旬の食材だとか、富士宮の食材・フルーツだとかを使って、SNSで宣伝しております。

富士宮にこうなってもらいたいという大きな思いは特にないんですけれども、私ができることを考えたときに、地域の人や、身近な家族とか友達とか、そういう人たちが、「キレイだね」とか「おいしかったよ」とか、笑顔になれるようなものづくりを通して、富士宮に来ていただける方が増えたらなという、そんな思いで日々頑張っております。以上です。ありがとうございました。

**【川勝知事】** 感心して聞いておりましたけれども、発言者1さん、昭和27年にこちらに移ってこられたということで、昭和27年というと1952年ですよ。今年には2020年だから70年近く前。事業継承は今難しいでしょう、いい家庭ということですね。180頭、子牛から親牛まで、牛のグルメに合うように考えて育てて、街で売っている牛乳よりもおいしい給食の牛乳を生産され、子どもたちにプレゼントをなさっている。

ですから、「何とか子どもを増やさんといかん。」ということで一生懸命やっていますけれども、女性も今、働く家庭が多いですからね。働きながら子育てもできる、それはだんな様も、地域の方たちも一緒に助けないとなかなかできないので、そういう時代を早く作っていかなくちゃいかんということで、そのモデルを富士宮から起こしていこうということ。

また、インフルエンザが突然広がって、そのために学校を休んだり休校になると、牛乳が無駄になるというのは、話を聞いてはじめて知りました。おそらく前日ぐらいに休校は決めているに違いありませんから、すぐに発言者1さんのところに連絡するようなシステムは、やった方がいいですよ。どういうふうにすれば、せっかくのおいしい牛乳、手塩にかけて作った牛乳を無駄にしないで済むかというのは、一緒に考えたいと思います。他のところにもひょっとすると、そういう問題があるかもしれませんので、応用したいと思いました。

それから、発言者2さんは感心しました。北海道から神奈川に来て、こちらに来て、土地に惚れ込んで気がついたら、140年続く八百屋さんに嫁いでいたという。そして、持ち前の芸術センスという才能が花開いて、フルーツサンドを作られた。

さっきちょっと見せてもらったんですけど、フルーツがめちゃくちゃ大きいんですよ。だからイチゴの赤だとか、メロンの美しい色とか、それが白のサンドイッチに映えるんですね。すごいと思いましたね。インスタグラムで3万人、4万人の人たちがいるということ。しかし、儲けたいというわけではなく、地元の人に楽しんでもらいたいとおっしゃっていて、消費者にとっての見本みたいなものじゃないですかね。

彼女が富士宮に住み込みで来て、こちらの良さがわかったというのは、この地域の持っている潜在力を示しているんじゃないですか。そういう機会を若者に提供する仕掛けをすれば、第二、第三の発言者2さんのような方が出て来られるのではないかと。発言者2さんは、子育てをしながら140年の伝統を持つ八百屋さんに花を添えている。ともかく感心しました。さっきの癒しグッズも人気でしょ。これからの時代はデザインですね。絵はきれいですけれども、すぐには役に立たないです。だけどデザインというのは、役に立つものを、人の心に訴えるようにするという有用性があるって、かつ美しいという、これがデザインなんですね。これからの時代は、まちの景観のデザインも、商品のデザインも、食べ物のデザインも、パンフレットもそうですよね。こういうものも、これから大切になってくるんじゃないでしょうか。そういうことを学んだ気がしました。感心したということが感想でございます

**【発言者3】** 先ほど紹介ありましたオブリック株式会社の専務取締役をやっております発言者3でございます。今日は「美マチラボ」の副代表ということで、「美マチラボ」の活動についてもお話をさせていただきたいと思います。私の経歴からまず、お話を

させていただきます。

私は、小学校は富士宮の東小学校に通っていましたが、中学・高校は沼津の方に通っていました。そのあと埼玉なんですけど、大学に通った後、東京でデザインを学び、東京で美容院の店舗設計に10年ほど携わり、27歳のときに独立をして会社を作りました。富士宮には帰って来なくてもいいかなと思ってたんですけど、やはり宿命というものがあまして、私も3代目になるんですけど、導かれるかのように戻ってきて10年が経ちます。

私の会社オブリックは、LPガスからエネルギーを販売しているんですけど、その中で正しい知識を知ってもらいたいと考え、2016年に「スタジオ・ガーデン」という多目的スペースを作りました。そこではガスを使っているいろんなことを楽しめるような仕組みづくりをしております。先ほどの発言者1さんからもありましたように、静岡県でも今問題になっている人口減少・高齢化。この事業をこれから継続していくためには、人がいなければ事業が成り立っていかないの、富士宮に住んでもらいたい、Iターン・Uターンを作っていかなきゃいけないということを考えておまして、そこで飲食店と経営会社の5名で「美マチラボ」というものを、2018年に発足をいたしました。「美マチラボ」というのは、「美しいまち」を研究する「ラボラトリー」を略した名前です。

2017年12月に世界遺産センターがオープンし、富士宮も観光客がかなり増えました。その中で、富士宮を発信したい、魅力を発信したいということで、富士宮をどうプロジェクトしていこうかというときに、やはり富士宮にはきれいな富士山があり、そこには雪解け水があります。雪解け水も、富士山の水が何年もかけて生まれ変わるという奇跡の水でありますので、その水に着目し、世界文化遺産に登録されている浅間大社に「水みくじ」を提案いたしました。「水みくじ」は、水に浸すと文字が出てきます。結ぶと富士山の形になる「咲良みくじ」を浅間大社に提案させていただいて、今、取り扱っていただいております。

また、「咲良守」という、富士山の形をしたお守りも作りまして、そちらも3種類ほどが浅間大社で発売をされております。

そういった富士宮の「かわいい」をSNSで発信しながら、富士宮の良さを、観光をアピールできたらなど、皆で提案しながら話題づくりを行ってきました。また、富士宮の水や食材を使った、富士宮のいろんな企業のお弁当が載っているチラシも作っ

ております。

そういうことによって、富士宮の食材をPRし、富士宮の良さをもっともっと外に発信したいと考えております。また、自然が豊富で気候にも恵まれた土地ですので、農業体験を県外に発信したりとか、富士宮の魅力をどんどん発信しながら、富士宮の良さもPRし、食材も県外へ発信していきたいと考えております。

先ほどの発言者1さんのように、自分たちでは作っても発信できないというときに、地元の企業みんなが力になって、県外にもPRしながら、Iターン・Uターンを作って、どんどん住みたくなるまち富士宮を活性化させていきたいと思っています。富士宮の人口を増やし、富士宮に観光にいっぱい来てもらえるような、そんなまちづくりをしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

**【発言者4】** 皆様こんにちは。旭紙工所・ホームーコスメティクスの発言者4と申します。私も「美マチラボ」の立ち上げメンバーで、発言者3さんと一緒に取組をさせていただいております。

美を発信したいという思いは発言者3さんに全てお話していただきましたので、この力強いバトンを受け継いで、私の方からは、一企業としてどう貢献できるかについて、お伝えできればと思っております。

旭紙工所というのは、私の祖父が創業した会社で、今は父が社長です。私は1人娘として生まれましたので、3代目として修行しているところです。本日は両親も来ているので、若干緊張しているんですけども、しっかり話せるようにがんばりたいと思います。

私が会社に入った時は、紙の加工をやっていましたが、当時、IT化がどんどん進んでおりましたので、ペーパーレス化で需要がどんどん減っている時期でした。3代目の修行をする中で、新しい事業をしていかないと会社の存続は難しいなと思ひまして、入社当時から何か新規事業が立ち上げられないか、ずっと模索しておりました。弊社では食品関係の紙もやっており、設備は整っていたこと、また、静岡県が実は化粧品の生産が盛んで、全国でもトップクラス。そういった条件が重なりまして、3年前に化粧品の製造許可を取得し、化粧品製造を新規事業として始めて参りました。OEMで、お客様の商品を製造・充填・仕上げしていくというのが主だったんですけども、何年かやっていくうちに、夢だった自社商品を作りたいという思いが強くな



りました。1年前に製造販売業、化粧品を製造して販売する許可も新たに取得し、同時に、ホーミーコスメティクスという新しい会社を自分で起業いたしまして、そこで、現在化粧品の企画・販売を行っているところです。

これが私のバックグラウンドなんですけれども、「キレイになるまち富士宮」をどのように発信していくか、企業として盛り上げていくかというところで、今回皆様に御紹介したいのが、私が2年前に立ち上げたご当地コスメブランドです。立ち上げたきっかけは、よく情報収集のために女性誌の化粧品の雑誌を何冊も読みあさっているんですけれども、ちょうどその頃ご当地コスメがブームで、ご当地コスメ特集がありました。北は北海道から南は沖縄まで、たくさんのご当地コスメがずらっと並んでいるんですけれども、残念ながら、静岡県は一つも取り上げられていませんでした。こんなにたくさんいい素材があるのに、なんでないんだろうっていうことで、じゃあ自分でブランドを立ち上げて販売してみたらどうかなと思いました。いろいろ富士宮のことや富士山のこと、地域の特色について調べていたところ、「コノハナサクヤヒメ」は日本の神話上、最も美しい女神、桜の語源にもなったお姫様であり、また、富士には「かぐや姫」伝説がございまして、こういった日本の美しいお姫様が2人もいる地域は他のところにはないなと思いました。いい化粧品素材もあり、ストーリー性もあるので、こういったものを含めて、地元の良さを発信していきたいなと思ひまして、今やっているところです。

商品は、まず富士山の溶岩パウダーを使った洗顔石鹸。富士山の溶岩はミネラルがとても豊富なので、お肌にやさしく、しっかり洗いあげることができるという特徴があり、第1弾として作りました。また、第2弾として、日本酒の化粧水を作らせていただきました。富士宮は酒蔵が4社ございまして、その中の1社とコラボさせていただきました。今回特別に日本酒に含まれるアミノ酸値を6倍にした化粧水、高保湿化粧水を完成することができました。

これからの展望としては、地元の素材を使った商品を通して、富士宮の良さ、静岡の良さ、そういったものを全国に発信し、また、富士山は日本の中で有名な山、美の象徴でございまして、国内だけでなく世界にも発信できるような存在になるのではないかなと思ひており、そういったもので展開していきたいなと思ひております。皆さんにぜひお願いしたいのが、まちづくりというのは、一人一人の市民の皆さんや企業が、拡散して広まってみんなで盛り上げていかなければ、発展しませんので、友達とか、そういつ

た方に、「富士宮はキレイなまちなんだよ」「こういう商品があるんだよ」っていうことを発信していただけると、とてもありがたいなと思っております。今日は御清聴ありがとうございました。

【川勝知事】 先ほどの発言者2さんに続いて、発言者3さんと発言者4さん、女性パワー炸裂という感じすごいですね。水の大切さを言われたじゃないですか。

その前に、発言者3さんはこちらで生まれて沼津に行って、また埼玉に行って、そして美容院のデザインをしたりして、就業されて帰って来られたんですよね。しかも3代目ということで、導かれて帰って来たと。修行が効いたかなと思いますね。今、静岡県では「30歳になったら静岡県！」というのをやってるんですよ。今、人生100年の時代でしょ。ですから30くらいになったら、結婚するとか、あるいは終の棲家をどこにするとか。仮に好きな人ができたら、その人を両親に紹介しなくちゃいけないじゃないですか。向こうの両親にも会いに行かなくちゃいけないですね。お父さんお母さんのことを考える年代が、だいたい30前後じゃないかと思うんですね。そのときに、お父さん、おじいさん、おばあさん、お母さんのことを考えて、「帰ろう」ということで帰って来られた。そして自分のふるさとを美しくしようということで、「美マチラボ」ですか、発言者4さんと一緒にやってらっしゃると。発言者3さんは副代表、かつオブリック株式会社専務取締役です。この若さで。発言者4さんは、株式会社旭紙工所常務取締役です。そして、ホーミーコスメティクス株式会社代表取締役です。今日は御両親もいらっしゃるそうですけれども、すばらしい「コノハナサクヤヒメ」か「かぐや姫」、両方合わせたような立派なお嬢様になられまして、誠にめでたうございます。

そして水というのがいかに大切かというのは、ちょっと外に出れば、大都会に行けばすぐわかるんじゃないでしょうか。湧玉の水は1日20万トンくらい出ているんじゃないでしょうか。富士山の中をくぐって、入ってくるわけですよね。その水に浸すと、水みくじに桜が出てきたりするっていうわけですね。こんな発想は宮司さんには出てこないと思うんですよ。彼女だから出てくると。外に出られて就業されて、地域を見直す目を持った発言者3さんならではの発見だったんじゃないでしょうかね。大したものだと感じ入った次第であります。

そして水は、今上陛下のライフワークです。水は命の元だということで、138億年

前という気の遠くなるような時に誕生し、太陽系、我々は太陽の周りを回っているわけですけども、46億年くらい前にできたと。そのとき、太陽の周りを回っている惑星の地球は火の玉だったそうです。その火の玉が、だんだん時間が経つと冷えて、海ができて、そして水が蒸発して陸地に来て淡水になったと。今、水の惑星と言いますけれども、地球上にある水の大半、98パーセントは海です。残り2パーセントのうち、大半は南極とか北極、あるいはグリーンランドの氷になっているわけです。そして、さらに残りの0.0数パーセントが、我々の飲む水なんですね。芝川にしても富士川にしても、汚れにすぐに気が付く、つまり水は汚しちゃいけないと思うのが日本人の基本的な審美眼、美意識なんですね。ケンカしないで「きれいさっぱり水に流して」仲良くしなさいと言うじゃないですか。流すときれいになるのは水がきれいだからですね。そういう水は、世界中にも稀なくらいしかない。富士山や南アルプスから汲んでくる水は本当にきれいです。これを活用して、富士宮の商品にするというのが発言者3さんでした。

発言者4さんのほうは、きれいになることのイメージが、かぐや姫とコノハナサクヤヒメ。天照大神のお孫さんに当たりますから。地上に降りてきて、あまりにきれいな人だということで恋をして、子どもが山幸彦・海幸彦と生まれるわけですよ。そのコノハナサクヤヒメとかぐや姫。感心しました。

そして、お酒です。一番手間がかかっている醸造酒は何でしょうか。一番手間のわからないのがブドウ酒だと思います。その次がビールぐらいで、一番手間ひまかけて作られるのが、日本酒ですね。お米を大切にしてきた、その酒を上手に使って、作られたっていうんですから、きれいになること疑いなしじゃないですかね。

女性がまちをきれいにする、人の心をきれいにする。人の顔立ちもきれいにする。よく御存知ですね。実は静岡県は、医薬品と医療機器と化粧品を合わせると年間1兆数千億円で過去3年間、断トツで1位です。なぜそうなるのかというと、私は水がきれいだからだと思いますね。水が豊かなので、たくさんの農産物ができます。339品目の農産物もできます。そして、海産物もありますから、日本一の食材の王国になっていると。漁場が豊かなのは、非常に栄養分のあるミネラルを含んだ川が、あるいは地下水が海から湧き出して、そこにたくさんのプランクトンが生まれて、それを魚介類が食べるから。全部水ですね。水の惑星だから水を大切にすると、天皇陛下が言われていますので。富士山の日にお生まれになったわけですね。2月23日ですから。富

士山のことを自分だと思ってるわけですが、多分。

水を守るというのは、日本文化の一番の基礎です。言ってみれば、フロントランナーが、この発言者3・発言者4コンビじゃないかと。この「美マチラボ」、5人が10人、10人が20人、20人が3,776人と、富士山の数になるまで頑張ってください。そんな応援をしたい気持ちであります。どうぞこれからも、この二人をよろしくお願いします。

【発言者5】 皆さんこんにちは。ホールアース農場の発言者5と申します。

私ども、ホールアース農場という名前で、年間80種類くらいの露地野菜とお米を作っています。場所は富士宮市下柚野ですね。旧芝川町下柚野地区で農業をやっております。ホールアースという名前は、ホールアース自然学校という団体がありまして、ここら辺でいうと、富士の丸美自然公園とか、田貫湖のふれあい自然塾という環境系の施設を受託運営している団体です。私自身もそこで20年ほど活動していましたが、約10年前に、まず自然のこと、そして産業のことも考えながら運営していける仕事がないかなということで、新しく、農業という分野で仕事がしたいと、1人で農業生産法人を設立いたしました。

今回こういう場所に座らせてもらっていますけれども、実は私、農業は全くの未経験で、親が農業をやっていたわけでもないし、生まれも育ちも千葉県船橋市という、どちらかというと都市部のほうで暮らしていたものですから、地方でどういうふうに農業をやっていくのかということは未知の世界です。研修も一切受けたことがなくて、ほぼ独学で農業をやって9年目です、今年。なので、例えば種をひとつ蒔くにしても、グーグル先生に頼りっぱなしで、「大根 種まき、検索」。「じゃがいも 収穫、検索」と、一つ一つわからないことをつぶしながらやってきたという状況です。

農業をやっていると、あまり地域の方は気がつかないんですけども、富士宮には有機農業、農薬や化学肥料を使わずに農業をやっている方がすごくいて、30軒から50軒ぐらいいるんですね。これはおそらく全国的にも、例えば山梨県の北杜市とか、埼玉県の小川町とか、そういったいろんな有機農業の先進地域みたいなところがあるんですけども、そこと肩を並べるぐらい有機農業が盛んな地域だと言ってもいいのかなと思っています。

有機農業って手間がかかるというか、労力がすごくかかるので、みんな一人一人がすごく苦勞しながら、20代30代、40代ぐらいまでの農業の経営者がやっていますけ

れども、私自身も未経験からやったということもあって、毎日が失敗の連続なんですね。そんな中でも、かなりの時間を使って、朝から晩まで泥にまみれながら仕事をし、おかげさまで毎年 30 パーセントぐらいずつ売り上げは上がってきています。

今、どちらかという野菜が足りないぐらいで、特に首都圏の小売店とか、個人の世帯の方からの注文がすごく多くて、一人の力だけではもう供給しきれないので、何とかならないかなとずっと考えていたところ、一昨年秋に、富士の農林事務所主催の商談会というのがありまして、地元の若手農家と富士・富士宮地区の飲食店が商談会をする、マッチングフェアみたいなものがあったんですね。そこに出かけて行って、一生懸命、自分が作った野菜を紹介するんですけども、まず皆さんから言われるのが、富士宮一帯に有機農家がいるのはわかったけれど、皆それぞれたくさん野菜を作っていて、どれもおいしそうだけど、みんな同じに見える。どの人とどう取引したらいいのかわからないし、たくさんの農家さんと取引するのもめんどくさいと言われました。そのあとの反省会で、そのとき 7 軒ぐらい農家が出たんですけど、これからどうしていこうかという話になったときに、みんなで共同出荷グループを作ろうという話になりました。

これまで共同出荷グループっていうのは幾つかあったんですが、一番大きな問題は、例えば各農家で作っている野菜の情報を取りまとめて、それをお客さんに FAX やメールで流して注文を受け、それをまたみんなに配って、みたいなことをやっていると、ものすごく手間がかかるんですね。誰もやりたがらない。その問題を解決しながら、みんなで共同出荷して、みんなで生きていける仕組みができないかなということで、今始めているのが、共同出荷グループ「フジベジファーマーズ」というグループで作っているクラウドシステムです。野菜の情報を各農家がスマートフォンやパソコンからインターネット上にアップすると、それがリアルタイムで飲食店の方々に届く。飲食店の方々が注文したのもリアルタイムで農家サイドが確認できる。そういう仕組みを作って運用しています。

いろいろな課題がありますけれども、全体的には伸びていて、お客様もどんどん増えていきますので、こういうことを続けながら、地域全体の有機農家が盛り上がっていくような仕組みが継続できればいいのかなと思っています。良くも悪くも農業分野は、補助金とかもあるものですから、そういうものをいただくこともあるんですけども、なるべくそういうものに頼らず、いただいた補助金は税金として返していくよ

うな気持ちで、これから農業を続けていければいいかなと思っています。

私は企画するのがすごく好きで、今は土に向き合って野菜を作ってますけれども、どちらかというと、もう少し顔を上げていろんな方々と繋がりながら、農業そのものを盛り上げていきたいなと思っています。例えば、今サラリーマンの副業解禁の流れがありますけれども、そういった方々に副業で農業の一部を担っていただく。例えばネギを作って一緒に販売するとか、そんなことを構想しながら、次の展開を考えていきたいなと思っています。

静岡県はどちらかというと、有機のものに対する理解がすごく深いというか、この前も東部地域でオーガニックフェスティバルが開催されたんですけども、ものすごいお客さんが来てくれて、販売する方もそうですし、それを買い求める方もたくさんいらっしやって、健康とか環境とか、そういったことに関心の強い方がたくさんいるんだなということを実感しました。

一人一人の農業の力は非常に弱いかもしれませんが、地域にはまだまだ若い農業の力がたくさんありますので、何とか力を合わせてみんなで生きていけるような農業・社会を実現したいなと思っていますので、これからも応援よろしくお願いします。どうもありがとうございました。

**【発言者6】** はじめまして。合同会社ルーツ&フルーツ 富士山ネイチャーツアーズの発言者6と申します。この度は、このような貴重な時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

まず最初に、私どもが運営しています富士山ネイチャーツアーズの紹介を少しさせていただきます。富士山ネイチャーツアーズは、富士山をメインフィールドにして、エコツアーを展開する観光事業者で、富士宮に拠点を移しまして15年になります。エコツアーというのは、自然環境に配慮した旅行商品で、例えば自然環境に配慮した少人数制のトレッキングツアーですとか、ハイキングツアー、そういったものを想像していただくとよくわかると思います。

私は、「富士山の魅力というものは、五合目より下にその7割がある」というのを持論としてずっと持っておりまして、富士登山に頼らない新しい形での観光のあり方というのを模索して活動をしてきました。ここで、会場の皆さんに質問させていただきたいと思いますが、富士山の山頂に登ったことがあるという方いらっしゃいますか。

さすが地元ですね。ほとんどの方が手を挙げてくださいました。では、もう一つ質問させていただきますと、五合目より下の登山道を歩いたことがあるという方、手を挙げてみてください。結構多いですね。

なぜこのような質問をしたかと申しますと、私達が御案内している富士山というのは、五合目より下のエリアです。ほとんどがそうですね。あまり人に知られていない魅力的な自然ですとか、歴史文化というのが、五合目より下の登山道には、実はたくさん残っているわけですね。昨今メディアで取り上げられるようになった「富士下山」という言葉を聞いたことがある方はいらっしゃるでしょうか。実は「富士下山」というツアーこそが、当社が15年前から取り組んでいるオリジナルの旅行商品、エコツアーになっています。

富士山の下といっても、裾野が大変広くて、それぞれが多くの魅力を持っています。例えば森林限界より上の火山砂礫地ですとか、森林限界周辺の極限の地域、少し下がっていくと、大人が3人から4人がかりでやっと抱えられるくらいの大きな巨木が立ち並ぶ森があったり。裾野に広がる湖ですとか、湧水地域、こういったもの全てが富士山の自然なんですね。富士宮の周辺ですと、人穴や火山洞窟も富士山が作り出した自然の産物です。そしてそれぞれの文化が、この自然を礎にして生まれてきたものなので、こういったなかなか知られていないものを紹介するのが、私たちが取り組んでいるエコツアー、富士下山というものなんですね。

富士下山の目的は、実はもう一つあります。ただ紹介するだけでなく、自然に親しんでいただいて、よく知っていただく。理解していただくことによって、自然を守ることができる人を育むというのが、私たちが取り組んでいる富士下山の目的になります。つまり、観光を切り口にした自然保護活動と捉えて、私たちは活動をしていきます。

昨今、富士山ではオーバーツーリズムが大変大きな問題になっています。五合目より上にたくさんの方が入ってしまうことによって、環境に非常に大きな負荷がかかるのではないかとということが問題になっていますが、私たちが取り組んでいる富士下山は、春から秋まで体験できるわけですね。そうしますと、五合目から上に人が集中する、いわゆるエリア的な過密だけではなくて、季節的な分散に寄与できると考えています。また、今まで人があまり目を向けなかった「富士山の五合目より下」に新しい価値観を見出したことで、新しい観光需要の創出にも成功しました。昨年度、こうい

った取組が評価されまして、「富士下山ー富士山の知られざる魅力に会う自然旅行」という私たちのツアーが、日本政府観光局、日本観光振興協会、そして日本旅行業協会が主催する「ジャパン・ツーリズム・アワード」という日本の旅行業の中で最大のアワードで、国連世界観光機関から倫理特別賞を受賞しました。新しい観光需要の創出と保全への取組を高く評価していただいたことを大変うれしく、名誉に感じます。富士山のさらなる観光発展に寄与できるよう、今後も努めて参りたいと思っています。

話は変わりますが、昨今のリニア開通工事に伴う川勝知事や静岡県の環境保全に対する考え方に大変強く共感しております。今後の富士山の観光発展におきましても、経済、環境、安全の3点、いずれかに偏ることなく、三位一体の観光政策をお願いしまして、私のタームを終了させていただきたいと思っております。御清聴ありがとうございました。

【川勝知事】 まず、発言者5さんは千葉県船橋出身ということで、大都会ですね。そこからこちらに来て、独学で農業を始められたと。これは最高に素晴らしい。なぜかという、仮に東京の大会社に勤めたとするじゃないですか。大会社は60歳で定年なんですね。それでマンションの一室が根拠地になって。土が無いわけですね。そういう生活を死ぬまで続けることがいいのかどうか、問うてみる価値がありますよね。こっちに来られて失敗の連続だったとおっしゃった。しかし、富士宮が有機農業の3大メッカの一つだというのも、富士宮がすごいところだというふうに思われたんじゃないかと思えますね。

扱っている野菜の数が、お米を含めて80種類というじゃないですか。北海道ですと広大な農園ですけども、どちらかというと単作が多いですよ。静岡県ほか本州では大体、露地野菜みたいなものが作られていて、静岡県はそれらが一番たくさん作られているところです。しかも健康にいいということで、有機栽培が富士宮で盛んだと。これは世界に誇るべきことだと思いますが、定年がないというのがいいじゃないですか。失敗ばかりしてきたとおっしゃったけれども、年間30パーセントずつ売上が上がってるんですって。すごいですよね。おめでとうございます。

それから、サラリーマンで副業やったらとおっしゃったんです。今、副業とか兼業をやりなさいと政府が言ってるんです。いきなり農業で自立することは誰もできないでしょ。ですから、土地をお借りして、小作でちょっと手伝うとか、自分のものを作



って収穫して、人に差し上げたり、あるいは農場の方達に売っていただいたりすることもできると。農業は一生できますから。仕事が首になっても、差し当たり食べるものには困らないというのは、どれほど安心でしょうか。

陛下もこの2月23日で60歳です。60歳から本業です。前の陛下は、昨年4月30日で譲位あそばされましたけれども、その時の年齢は85歳と4ヶ月です。国民の統合のシンボルが80代前半まで現役で仕事をされているのですが、大企業に勤めているとそれができないわけですね。これからは農林水産業、それから中小企業、小企業の時代、人生100年時代の主役になるというふうに思っております。その中でも主役は、食べることですから農業ということで。そして、単に土をいじっているだけではなくて、最新のインターネットなどを使って、皆一緒になってクラウドで注文を取って、受注から販売まで行われているということですね。旧来の農業に新しい技術が結合したということにフロンティアがある、未来がある。第1次産業のルネサンスが始まるという予感を、発言者5さんの話を承りながら感じました。

そしてここは東京から近いです。都会性もあります。もちろん豊かな自然があります。これほど多様な自然を持っているのはここじゃないかと思います。富士山のおてっぺんは亜寒帯、マイナス10度20度ぐらいになっているんじゃないでしょうか。北海道の一番寒いところと一緒にすよね。伊豆半島は南海からの贈りものですから、亜熱帯です。亜寒帯から亜熱帯ということは、日本の全部のものがここ静岡県にあるということですね。

富士下山というのは、頂上から下りてくることだと思ったらそうじゃないと。五合目は標高2400m位ですか。2400mからの下山ですから、これはもう下山に値しますね。そこに目をつけたパイオニアだっていうんですから、富士宮の誇りですね。登山の場合は、天候の異変がありますと御来光が仰げず、下りなくてはなりません。しかし、下山に魅力があることを、発言者6さんを通じて知ったわけでございまして、この二人、農業と富士に対し、発想の転換で、ビジネスチャンス、そして新しい地元の魅力の発見をされたということで、これもまた富士宮の誇るお二人ではないかと。しかも発言者5さんの場合は、先ほどの発言者2さんと一緒ですけども、県外からお越しになった方ですから、これからは県外にどのようにして富士宮の魅力を発信していくかということも課題になりそうですね。

食べ物がおいしい。有機農業のメッカでもある。そして、なんといっても富士山が

ある。水がきれいである。コノハナサクヤヒメとかぐや姫の化粧品もある。お酒もおいしい。ということで、言うことないんじゃないでしょうか。

静岡県から山梨県は、今、国道 52 号線でずっと新清水から行ってますけれども、来年の頃には甲府まで中部横断自動車道ができます。富士一周を、歩いたり、走ったり、自転車で回ったり、いろいろなことができます。

そういう意味で、リニアについても、東京から時速 600 km で甲府に来るわけです。直線距離は 102 km しかありませんから、東京から甲府までせいぜい 170 km くらいですかね。ですからものの 20 分ぐらいで着いちゃうんですよ。地下の真っ暗なところを走って甲府で降りるとそこは別世界。そこから身延線に乗って静岡に下りて来て、新富士や静岡で新幹線に乗り換えて東京に戻ったら、富士山一周じゃないですか。なにも南アルプスにトンネルを作らなくても、それだけでもいい。山梨県は 4、5 年前、雪に閉ざされて、陸の孤島になりました。我々はヘリコプターで助けに行ったわけです。しかし、もし地下を通る列車だったら、山梨県から都会へリニアに乗ってずっと逃げられるじゃないですか。有事の時にはね。平時の時には、先ほど言ったようなことができるということですからね。いずれにしても私どもも、山梨県の人も、同じ「ふじのくに」の地域にあって、この富士下山、下山の魅力を、ということでもあります。

南アルプスの水のことについて、応援をいただきまして、本当にありがたいことです。大井川というのは、「越すに越されぬ大井川」というふうに言われていますが、実際に行ってみると、カツカツですよ。去年も一昨年も 100 日以上節水です。牧之原の大地というのはお茶畑でしょ。昔は、水は、雨水を受けて飲んでいたそうです。それから、お茶畑には水をため池から持ってきてやっていたということです。今ようやく農水省の灌漑事業で水路が台地の上に行くことになって、ようやく生きています。それから吉田町というところは、一番河口のところにありますけれども、全部地下水を使っています。ですから、「地下水が切れたら吉田町は全滅だ。」と、吉田町の町長さんは言ってらっしゃいます。地下水というのは富士山を見ればわかりますように川がなく、全部地下をくぐって、どこかで出てきているわけですね。そうしたものが駿河湾に注いだりしているわけです。ですから、それを区切ったら、干上がってしまって、田んぼもできないし、水わさびもできなくなった丹那盆地みたいになってしまいます。そういうことになったらもう取り返しがつきませんので、水の問題は譲れないところがあります。富士宮は直接は関係ないようですけども、実際は水のことについて、皆さんよく御存知の方たち

ばかりですね。60万以上の人たちが大井川の水道で生きていらっしゃいます。年間のGDPは3.7兆円です。水がなかったら、経済も生きていくことも何もできないということで、そこが今、心配されているのです。まさか発言者6さんから応援歌をいただくとは思わなかったので、感激しております。ありがとうございました。以上でございます。

【発言者3】 あらためて、「富士山の活性化についての提言を」ということで御質問いただきました。先ほどお話ししましたが、農業の方もいらっしゃいましたので、「美マチラボ」を通じながら、農業体験を県外にPRしても面白いのかなということを考えていまして。最終的にトレッキングやハイキング、ラフティングといったものも含めて考えています。発言者6さんや他の方と一緒にしながら、いろんなところにPRしていけたらなと思っているところです。

【発言者5】 そうですね。今、お話がありましたけれども、富士宮でいろんな挑戦をしている方がたくさんいることがよくわかりまして、今回の農業体験をもっと外に発信ということもそうですが、どちらかというとならば第一産業に関わっている方は、自分で自ら発信するということが得意じゃない。私を含めてですね。そういったところの情報発信とか流通とか、そういったところに力を貸していただける、そんなネットワークができればいいかなと思っています。

【発言者6】 当社は団体ツアーを行っておりますので、団体の皆さんへのお弁当の手配なんかも、新しく知り合えた仲間たちとコラボレーションできていたら嬉しいなと思いますし、単発での発信というのはどうしても力が弱くなってきますので、この6人のほかにもたくさんの繋がりができてくるでしょうから、線につながり面での発信ができるような、そんなネットワークづくりがこの機会にできたらいいなというふうに感じました。

【発言者2】 田舎の個人商店が全国のスーパーとかに勝つのはとても大変なので、地元の食材を使ったり、目で見てより楽しいものを作ったりして、個人商店を盛り上げられたらなと。あと地域の人たちとつながっていけたらなと思いますので、皆様に

も是非御来店いただきたいと思います。

【傍聴者1】 こんにちは。私、「柚野の里まつり」というお祭りの事務局長をしております傍聴者1と申します。富士宮市の大鹿窪というところに住んでおります。よろしく申し上げます。我々の住む柚野という地区は、旧芝川町の中の一地区で、そこで地域振興の祭りをやっているんですけれども、大鹿窪遺跡という遺跡の横で毎年11月に開催しております。この遺跡は、2008年に国の指定史跡に指定された遺跡で、日本最古の定住跡地と言われています。14棟の住居が発見されており、1万3000年前に、ここに人が住んでいたということで、これ以前の定住した跡は旧石器時代ですので、一番最初に定住を始めた都市という、大変価値の高いところではないかなと理解しています。しかし、こういった素晴らしい遺跡があることを、知らない方もまだ結構たくさんいらっしゃると思います。こういった情報もまた地域振興に繋がっていくことと思いますので、県の方でも情報発信などをしていただければありがたいと思います。

配石遺構から富士山信仰の文化の始まりじゃないかということも推察されているらしいですが、こういったことを県で情報発信していただく中で、ぜひ教育の観点で、縄文の中から子供たちが学べるものがたくさんあるんじゃないかと、お祭りを通じて感じておりますので、教育の中にも縄文というテーマを取り入れていただけたらと考えております。本日はお時間いただきありがとうございます。

【川勝知事】 どうもありがとうございました。県に「ふじのくに地球環境史ミュージアム」というのがあるのを御存知ですか。この施設は高等学校の建物をミュージアムに変えたところですが、この展示がすごいということで、現在の秋篠宮皇嗣同妃両殿下がお越しになられたり、世界のデザインの賞に何度も輝いたりしているところです。この館長が大鹿窪に着目されております。今一生懸命にやってらっしゃいますから、お祭りの時などを介して、この遺跡について教育に。ちなみに館長は、元国際日本文化研究センターの教授で、環境考古学という学問を立てた方です。そして、スウェーデンの王立アカデミーというノーベル賞を選ぶ学術会議の日本人のメンバーです。このメンバーは日本に10人くらいしかいません。そのうちの1人である彼が大鹿窪に着目していますので、今お話いただいたことは、本当に知られるに値することだと私も思っております。

ありがとうございました。

【傍聴者2】 芝川の香葉台（こうようだい）というところに住んでおります傍聴者2と申します。県の消費者団体連盟の会長をしている関係で知事にはお世話になっております。今日「静岡県の新ビジョン」のリーフレットをいただいたのですが、これを開きますと、左側のほうに「目指す姿」ということで、静岡県の目指す理想の姿、“八つの「よし」”が書かれております。〈生まれてよし 老いてよし〉、〈生んでよし 育ててよし〉、〈学んでよし 働いてよし〉、〈住んでよし 訪れてよし〉この“八つの「よし」”なのですが、私は北海道の出身で、結婚してこちらに来たものから、「生まれてよし」だけ該当しませんけれども、他の七つの「よし」は該当しまして、静岡県はとて素晴らしいところです。気候もいいですし、食べ物も豊富で果物も豊富。本当にいいところだなって。北海道には帰りたくないなと思っているんですけども、この“八つの「よし」”を知らない県民の方が大勢いらっしゃると思います。ぜひ機会あるごとに、どこかに掲示していただきたい。今日の「平太さんと語ろう」の横断幕の下に“八つの「よし」”を書いていただければ、すごい宣伝になるなと思いました。

それとリニアの件では、先ほど知事からお言葉がありましたけれど、私たちもやはり、静岡県・日本国民として、命の水の大切さ、これを本当に訴えていかなければいけないと思っております。団体としまして、国の関係各団体に要請文を出したいなと今、練っております。ぜひ、がんばっていただきたいと思うのですが、つい2、3日前に、「静岡県にはリニアは止まらないのに、関係ないのに、なんで静岡県知事は反対するのかな」という問いがありました。水の問題、大井川、本当に62万人の人の命がかかっているということと、大井川流域の方々だけではなくて、静岡県民全員の問題、また日本の問題、世界的にも水資源が枯渇してますので、絶対に守っていかなきゃいけない水ですので、私たちも本当に頑張っていきますので、よろしく願いいたします。今日は富士宮にお越しいただきまして、本当にありがとうございました。

【川勝知事】 県は総合計画というのを作りますが、その重要メンバーのお一人で、いつも必ず御発言をされまして、消費者の立場に立った形で立派な発言をされている傍聴者2さんです。北海道御出身であることは今日初めて知りました。発言者2さんと一緒ですね。

実は富士山静岡空港というのは、平成21年6月4日に開港しましたが、全日空が北海道と静岡空港と沖縄を結ぶと、これがドル箱になったんです。全日空は、羽田とか成田とか、一番搭乗率の高い1番と2番をずっと続けてきたんですよ。今、飛行機の機体が少し大きくなりました。それから、フジドリームエアラインズ、FDAという会社がありますけれども、ここも夏ダイヤは北海道に飛んでいます。ですから、簡単に行けるようになっておりますね。二つの会社が毎日飛ばしていますから。

富士宮市ではありませんが、松崎という伊豆半島の西海岸のところにある、とてもきれいなところではありますが、その依田勉三という方が、日高山脈のロシア側は石狩ですね、太平洋側が十勝平野ですけれども、あれは静岡県の依田勉三さんが開拓されたんですよ。だから北海道の人は、依田さんの恩義を誰も忘れていないと。今日は、その北海道から、発言者2さんがそこで小学校を過ごされたとお話承りまして。傍聴者2さんもそういう御縁があったということで、北海道がすごく静岡にとって近くなりました。北海道には蝦夷富士もあります。さらに稚内の日本海側のところに利尻島あるいは礼文島というのがありますが、利尻も利尻富士がありますから、全部「ふじのくに」として一体でございます。いつでも帰れます。いずれにしましてもこちらにいていただいているのは大変ありがたいことです。

傍聴者2さんが富士宮の人だということを今日知ったのも、うれしゅうございました。ありがとうございました。それから、“八つの「よし」”ですね。わかりました。いろいろと御提言いただきまして、いつもながら、ありがとうございます。

【傍聴者3】 こんにちは。NPO法人母力向上委員会という子育て支援の活動に携わっている傍聴者3と申します。本日は貴重なお話を聞かせていただきましてありがとうございました。県の堅苦しい感じなのかなと思ったら、ビジネスの講習会に来たような感じで、すごく為になるお話がたくさんでした。先日、地方創生担当大臣が、ベビーステーションの視察に富士宮に来ていただきまして、私も現地のコンビニを御案内させていただいた次第です。このベビーステーションというのは、私たち子育ての当事者からの目線で発案したもので、富士宮市の事業としては、コンビニで紙オムツを売っていただいたり、ミルクのお湯を提供してくださるところの登録をさせていただいています。この事業を始めて5年目になるんですけれども、始めた当初からすごく注目いただいて、いろんな自治体の方から、うちのところでもやってみたいとか、市民の方から、うちの

市にもこういうのがあったらいいっていうふうにお声掛けをいただいて、いくつかお話を聞きに来てくださったところもありました。同じような形で認識できるように広まっていったらいいなと思ったんですが、なかなかそういった形でできないところもありまして。各自治体さんで、赤ちゃんの駅事業というものをすでに独自でやられていて、私達の場合は、どこにでもあるコンビニで、こういった支援ができるということを主にしていたんですけれども、なかなかそこがうまく広まらないというところがありまして。ちょうど今年5年目でしたので、事業の成果を見ようということで調査したところ、富士宮市内の場合は9割のコンビニで紙オムツを売っているんですけれども、この事業を始める前は6割だったと。それが、別のお隣の某市を調査したところ、4割の販売だったことから、この事業の成果をもっともっと広げていきたいなと思っています。もっと言うと、ニーズとしては、おむつ交換台も設置してほしいとか、離乳食も置いてほしいというのものもあるんですけれども、なかなかそこまで辿りつかないところがあるので、ぜひアドバイスというか、御支援いただけたらありがたいなと思います。

**【川勝知事】** これはPRすればいいですね。6割が9割になったというので。お隣は4割だっていうんですから、ダブルスコアで勝っているわけじゃないですか。

コンビニとはいろいろな包括協定を結んでおりますので、それから内閣の特命担当大臣がこっちに来られたのはすごいですよ。とてもフットワークの軽い方で、いいところを見に来るということで、静岡県に来られたんですよ。静岡県も広いわけですけども、確か1日しかいらっしゃらなかったと思います。いろんな交付金ももらっておりますので、私はお礼を申し上げようと思ったら、幾つか見たいところがあるということで、あなたのところを選ばれたわけですね。ですから、紙オムツだとか離乳食だとか、それからもっとコンビニで、そういう子育てに困ってる方といいますか、そういう人たちの声を、お客様に喜ばればコンビニも喜ぶに違いありませんので、まずは県下全体で広めていきましょう。富士宮モデルということで。あなたもぜひそういう形でPRに御協力くださいませ。ありがとうございました。

**【傍聴者4】** 今日はありがとうございます。平井というところに住んでいます傍聴者4と申します。今日は傍聴者2さんの紹介で、出席させていただくようになりました。そこで私のお願いすることをお話したいと思います。

この芝川というのは、芝川の川でもっているようなものです。美しい川です。きれいな川です。今どういう川になっているかというのを知っていただきたい。皆さん、「長貫えん堤」というのがあるのを御存知ですか。ほとんどの方が知りません。えん堤で川が完全に止まっています。一滴も流れていません。どういうことかということ、左岸、右岸で水を全て取水しております。そのため下流は、先ほど知事から大井川の話がありましたけれど、芝川もカツカツです。そういうことを知っていただきたい。なぜそういうことになっているかということ、水が全て取られているからです。それを何とかしていただきたい。こういうことでお願いしたい。この川については、いろいろ話すと長くなりますが、ここにレポートがあります。昨年4月に「つり人」という、全国で販売されている雑誌の方が取材に来まして、6月号に載せられたレポートです。これを見れば、はっきりといろいろなことが書いてあります。これをぜひ見ていただきたい。このレポートを知っていただいて、芝川がどうなっているか知っていただきたい。そして私としては、少しでも水を流していただきたい。下流はどうなっているかということ、駅のところを、皆さん帰る時でいいですので見ていってください。ちょろちょろです。この美しい、きれいな清流の川が、こういう状態になっていることをぜひ知っていただきたいということです。ありがとうございました。

【川勝知事】 わかりました。それじゃあそれは資料とさせていただきます、後で。そして現場も見に行つて、現状を認識して、元の芝川の清流に、豊かな清流に戻るように何ができるか、一緒に考えていきましょう。ありがとうございました。

【傍聴者5】 はじめまして。やっと知事さんに会えました。有機農業を50年やっています。皆さん忘れかけていると思うんですが、東日本大震災の年のお茶農家は、浜松から神奈川の県境まで、作ったお茶を全量廃棄処分しました。売ってしまったお茶はともかく、在庫の分については、放射能汚染でだめになりました。私の健康の問題もあり、今まで開店休業、倒産同然です。昨年、病気が治ったため、今年からまたお茶づくりを再開しました。

知事をお願いします。浜岡を、絶対廃止にしてほしいです。広島のパネル公園には、「過ちは二度と繰り返しません」と書いてあります。私は人間ほど素晴らしい生き物はないけれども、地球史上始まって以来の最大最悪のがんとも言える。人間がいなか



ったら、地球はもっともっとすごく平和だと思います。

【川勝知事】 原発の事故でひどい目にありましたね。東日本大震災の教訓を酌み取るべきで、浜岡原子力発電所は動きませんから大丈夫です。お身体はともかく治って良かったですね。あなたのような400年の歴史をずっと背負ってやってこられた人が、実はここを有機農業のメッカにしてきたんじゃないですか。お身体を大事にしてください。おっしゃることは正論だと思いました。ありがとうございました。

【傍聴者6】 芝川の柚野に住んでおります傍聴者6といます。先ほどから川の水について、大変力強いお言葉をいただきました。ありがとうございます。今日、山梨の方から私のところへFAXが入りました。雨畑のダムの土砂の4割撤去が、できるのかできないのかという新聞記事でした。静岡県として、土砂を引き受けてもいいという話が私の耳にちょっと入りました。撤去された土砂は、多分、4、5百万立方メートルという、とてつもない量になっているはずですが、1日550台のトラックが5年間寝ずに運ばなければならないような量です。それを本当にできるのかできないのかはともかくとして、静岡県も何か手伝えるものがあったら手伝ってもらいたいということと、撤去したという名目で、水門を開けられて、そこの土砂を下へ流されると元の本阿弥になると思います。そういったことが絶対ないように。また、工事をしているときに、汚れが富士川に流れてこないような方策でやってもらいたいということ、山梨県へと強く申し入れてもらいたいと思います。よろしくお願いします。

【川勝知事】 もっともな話です。御存知のように、雨畑のダムは9割埋まっています。そして、あそこは2000メートル級の山から、年間50万立米崩れてくるんですね。これは誰も止めることができない。毎年50万立米を取り出さなければ、ただ埋まるだけなんです。そして日軽金は持って行くところがないということだったんです。どうしたらいいかと。差し当たって、静岡県は505キロの海岸線があつて、土砂の足りないところもあるんです。あそこはアルプスの南側でありますから、実は土質がすごく良くて、それ自体はいわば資源なんです。これを邪魔物というだけではなくて、どういう形で生かせるかと。あれだけの量のものを、日軽金も持って行くところがなければいけないでしょ。差し当たり若干量であれば、例えば早川町からこちらの方まで、土砂を持っていく

ところがあるということが必要です。あのまま放っておくと、もうこれは全部溢れてきますから、大雨が降るとそのまま雨畑から早川に入って、そして富士川に来ますのでね。とりあえず、始めないといけないです。4割といっても600～700万立米ぐらいありますからね。持っていくところがなければ、取れと言ったって、それは机上の空論です。静岡県としては、防潮堤といいますか、必要とされているところがありますので、その町長さん、市長さんとお話をして、取組をするというふうにできるかなと。ということでお手伝いが出来ればと。とにかく水は汚してはならないので。汚れる原因は、行ったらすぐわかりますけれども、ちょっと雨が降ったらパーッと溢れて、水自体が濁っています。早川に注ぎ込む雨畑の川が濁って、それが富士川に入って濁って、駿河湾を濁して、プランクトンが光合成できなくて、今の不漁に繋がっているのは素人目にもわかります。その問題は共有していますから。どうしたら一緒に解決できるかという方向で考えていきたいと。ちなみに、早川は山梨県で、調査ができなかったんですよ。ところが、昨年、山梨県知事が代わられて、初めにお目にかかった時に、「何とか調査させてください」と言ったら、「当たり前でしょう。川は上流から下流で一つですから、すぐやってください。」と言ってくれたんですよ。そういう良い関係もございますので、みんなで知恵を絞って清流に戻していくというふうにしたいものです。問題意識は共有しているということでもあります。ありがとうございました。